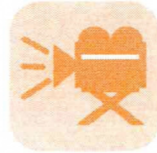


視聴覚ライブラリーからのお知らせ

今年度もセンターの視聴覚機器をご利用いただき、誠にありがとうございます。

平成11年度の4月から12月までの16ミリ映画フィルムの貸出本数は910本で視聴した方のべ人数は52,425人、ビデオ教材の貸出本数は899本で視聴した方のべ人数は51,548人です。作品別の利用回数を見ますと、16ミリ映画フィルムではアニメ作品が人気で、幼稚園・保育所・児童館等で盛んにご利用いただいております。ビデオ教材については小・中・特殊教育諸学校で多く利用いただいております。写真や図書資料だけでは理解しにくい内容のものが人気です。これからも是非ご利用ください。



16ミリ映画フィルム利用回数ベスト5

順位	分類番号	フィルムの題名	回数
1	113-374	忍たま乱太郎 パートV	22回
1	113-381	トイレの花子さん	22回
3	113-303	アバソマとばいきんまん	19回
4	113-304	アバソマまじよのくに	17回
4	113-378	ドラゴンの朝ごはん	17回

平成11年度4月～12月調べ

ビデオ教材利用回数ベスト5

順位	分類番号	ビデオの題名	回数
1	P07-121	ストップ・ザ・スモーク	22回
2	P04-320	太陽と月を観察する	20回
3	P01-112	附子	17回
4	P04-321	月の形と太陽の位置	16回
4	P04-710	食べ物の旅	16回

平成11年度4月～12月調べ

テレビ会議システムで学校交流

巻頭の写真は金沢市立朝日小学校と金沢市立俵小学校の学校交流の様子です。児童がビデオカメラに向かって話をしますと、電話線（ISDN）を通してその映像と音声は相手校のスクリーンに映し出されます。お互いの学習の成果を発表したり、その内容について質問し合ったりと学校に居ながらにして楽しく交流が進められます。このテレビ会議には当センターのテレビ会議システム「Media Point」が利用されています。市内小中学校への貸し出しを行っていますので、市内学校間の交流を希望される学校はご連絡ください。総合的な学習の時間等でさまざまな活用方法が考えられます。



●学校間のテレビ会議を効果的に行うために

・目的を明確に、事前の打ち合わせを大切に！

お互いの学校のねらいを共通理解していることや交流全体のどの段階でテレビ会議を行ったら効果的かよく話し合っておくことが大切です。

・限られたテレビ会議の時間の中でよりよく伝えよう！

事前に他のメディアでの交流（電子メールや手紙など）を行っておくと親密感を持って交流できます。またテレビ会議の場合映し出される映像情報に限りがありますので、話し合いの中心になる学習の成果物等を事前に相手に送ったり、ホームページにして見ておいてもらったりするとより深く交流できます。

(金岡)

発行者
金沢市教育研究センター
所長 福島 茂
〒920-0855 金沢市武蔵町14番31号
TEL (221)7949 FAX (221)6800
http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/ed-center/
ed-center@city.kanazawa.ishikawa.jp

金沢市教育相談センター
所長 田野 正昭
〒920-0852 金沢市此花町2番7号
TEL (224)0874 FAX (263)7830
kyouiku_so@city.kanazawa.ishikawa.jp

※この冊子は再生紙を使用しています。



写真：金沢市立朝日小学校テレビ会議の様子

第137号

平成12年2月10日発行

「新たな歩みを始めて一年」

金沢市教育研究センター
所長 福島 茂

本年度、金沢市教育委員会主催の研修会（30講座、78日間）に述べ3167名の教職員の方が参加されました。「大変いい勉強をさせていただきました。」という声に励まされながらも、参加された皆さんの熱心に取り組んでおられる姿を見るにつけ、「この研修講座はこれでよかったのだろうか。」など、考えさせられました。

来年度は、中核市への県費負担教職員の研修権限の委譲によって、教育研究センターの果たすべき役割も、更に大きく重要になることと思います。教職員の皆さんの資質向上に直接かかわる仕事を担当することの重責を身をもって感じながらも、皆さんの声に真摯に耳を傾け、職員と知恵を出し合い、取り組んでいきたいと思っています。

小学校英語活動も、年々その活動が充実してきているように思います。中学校の英語担当の先生から「中学校にくる生徒が変わった。積極的に外国の方と接するようになったし、英語で伝えてみようとする姿勢も以前より出てきた。」という声も頂きました。EAC・EAAの方と共に、更に充実していきたいと思っています。

研究につきましては、「心の教育・人権教育・特殊教育」の3分野について12名の先生方に研究を委託しました。その成果をまとめ、近くお届けいたします。

教育研究センターとして新たな歩みを始めて1年、本当にご協力・お力添えありがとうございました。更なる充実を目指して心を新たにしています。

一年の「重さ」

金沢市教育相談センター
所長 田野 正昭

昨年4月に開所した教育相談センターは、開放的で、しかもゆったりとした環境が整備され、通所する子どもたちや相談に来られる保護者、先生方には好印象をもっていただくことができました。

ところが、相談・研修・調査研究の分野における業務の「質」となると、客観的に評価しづらくなります。特に、相談に関する「質」は担当者としての評価にはなじみにくいようです。相談の内容によってはかなりの時間がかかり、何年間も継続することもあります。このような相談を評価できるのは、担当者ではなく、むしろ相談に来られた方々だと思います。その意味からも相談を受けることの厳しさを実感しております。

また、相談にこられる人たちのお話には、どれもその人たちにとっての悩みや苦しみがこめられています。そして、面談のあとには、こちらの心の中で、その人たちから受けとめた、ずっしりとした「重さ」を感じます。こちらが「重さ」を感じることで、相談に来られた方の悩みや苦しさが少しでも軽くなるとしたら、それだけでもお役に立てたのだらうと思えます。しかし、相談に来られた人がいつも面談のたびに、それを確認させてくださるとは限りません。ただ、この度も相談に来てくださること、そのことが相談の「質」を語ってくれているのかもしれない。

昨日の自分と今日の自分は、ある見方をすれば同じであり、他の見方に立てば違っていることは、誰でも頭では理解できます。しかし、それを実感を持って感じることは日常的には少ないのではないのでしょうか。私は一人の女性との「出会い」を通して、それを実感することができました。

その彼女は、ある日から私にこれまでに自分が体験してきたことを語ってくれるようになりました。できることなら忘れてしまいたい辛い過去……涙が溢れてきたり、突然、弱々しい声になったりと、悲しみや苦しみと正面から向き合う彼女の気持ちは大きく揺れながら、湧き上がってきた感情をそのまま表現してくれました。私はただ彼女のそばで聞くことしかできませんでした。それは、日をおいて何度も何度も繰り返されました。

ある時、彼女の口調が少しずつ変化してきていることに気がつきました。彼女にとってこのような「過去を語る」ということはどのような意味があったのでしょ

うか。彼女が過去を振り返ったとしても、すべてのことを語っていたわけではありません。たくさんの過去の中から、自分ではなかなか整理することができない過去を語ってくれたのだと思います。その過去を誰かに語りもう一度見つめ直すことで、その過去との向き合い方が変わり、自分の中で納める場所が見えてきたのかもしれません。落ち着いてきた彼女の口から予想もしていなかった「これも自分なんです」という言葉が出てきました。私にはそんな彼女がとても大きな存在として感じられ、聞くことしかできなかった自分がちっぽけな存在に感じられました。そして、「自分という人間はどんな存在なんだろう？もっと自分について知りたい」という気持ちが私の中でどんどん膨らんできました。

今、新たな自分を見出し確かな一歩を踏み出そうとしている彼女のそばで、私も自分を見つめる心の作業を始めています。

(稲井)

最近、学級づくりのひとつの手法として構成的グループ・エンカウンター（以下SGE）が注目されています。今回はSGEのねらいと具体例、留意点をとりあげてみました。

一般的には教育相談には、いじめ不登校などが起きてから対処していくための相談と、問題が起きる前の予防・開発的な相談があります。SGEは後者の手だてのひとつになります。特に学級内の人間関係づくりに効果的な集団活動であり、子ども同士の理解が深まるといわれています。

実践するときは子どもの実態に合わせ、学級内の人間関係が希薄だと思えば「他者理解」や「信頼体験」をねらいにしたエクササイズを、また子どもに自信を持たせたい場合は「自己受容」や「自己主張」をねらいにしたエクササイズを取り入れることが望ましいでしょう。

SGEの実際を具体例をあげて説明します。

集団になじみにくい子どもがいる場合に効果的なSGEの例 「ブラインドウォーク」

「ブラインドウォーク」は二人がペアになり片方が目を閉じもう片方はその人を案内して歩くという

ものです。信頼体験をねらっています。

①インストラクション

まずデモンストレーションやねらいの説明、注意などをします。

②エクササイズ

歩きながら自分を人に任せきりという体験と案内する時にどのくらいやさしさを表すことができるかを知る体験をします。

③シェアリング（ふりかえり）

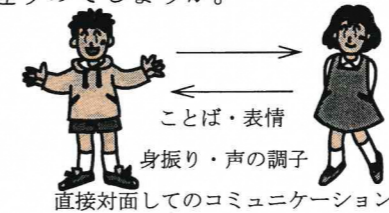
最後にねらいを定着させるために時間をかけてふりかえりをします。何に気づき何を感じたかを級友とわかちあいます。目を閉じた人は、どんな感じだったか、案内した人はどうやさしさを伝えようとしたかを話し合います。新しい学級でやさしさにふれ、他のメンバーのあたたかさを知ると不安が軽減されるようです。

SGEを実施する上で最も大切なことは、子どもにとって自由で安全に活動できる場を設定することです。無理なSGEは子どもの心に傷を残すこともあります。教師が子どもの気持ちを理解しながら焦らずゆとりを持って行うことが大切です。

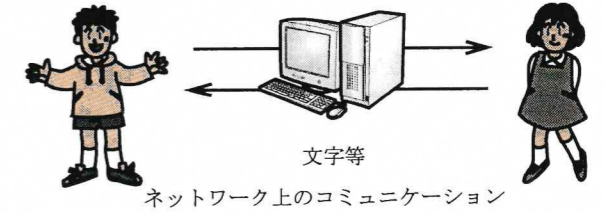
(西)

今日、インターネットや電子メールを活用したネットワーク社会が世界的な広がりを見せています。Webページを閲覧していろいろな情報を集めたり、電子メールで連絡を取ったりしたことのある人も多いでしょう。このようなネットワーク社会の中で、お互いに自分の考えを発信し交流するためには、マナーを守ることがとても大切になります。

では、直接対面してのコミュニケーションとネットワーク上のコミュニケーションとはどこが違うのでしょうか。



直接対面してのコミュニケーション



ネットワーク上のコミュニケーション

対面してのコミュニケーションでは、話している言葉のほかに、表情や身振り、声の調子などから聞き手に自分の思いが伝わります。それに比べてネットワークを介した場合には、文字での表現が主となり自分の表現したいことがそのまま相手に伝わらずに誤解を招く可能性もでてくるのです。従って、直接対面して話す場合以上に気を配る必要があります。

以下に、電子メールをやりとりする場合とWebページを公開する場合でのマナーをあげますので参考にしてください。

電子メールでのマナー

- いいたいことは簡潔に書き、返事はなるべく早く返しましょう！
- 自分の発言には責任を持ちましょう！
内容や言葉づかいを確認し、くれぐれも相手の中傷したり感情的な表現にならないように気をつけてください。
- 出所の不明なものは送らないでおきましょう！
チェーンメール（不幸の手紙等）は勇気を持ってSTOPしましょう。
- 他人に知られはいけない情報は書かないでおきましょう！
個人情報（クレジット番号、住所、電話番号）、パスワードなどです。



Webページでのマナー

- 著作権を尊重しましょう！
著作物は、著作者に許可をもらう必要があります。子どもの作品は子どもが著作者ですから、本人の許可をもらって下さい。
- 肖像権に配慮しましょう！
子どもの顔がはっきりわかる写真は、保護者に許可をもらって下さい。また、子どもの顔をぼかすなどの加工をしたり名前が一致するようなのせ方はいけません。
- 個人情報の保護に配慮しましょう！
子どもや職員の住所、電話番号、性別、年齢等はこのせないで下さい。
- リンクをはる場合は、相手にメールで知らせておきましょう！
- 電子掲示板等にむやみに書き込んで、相手に迷惑をかけないようにしましょう！

ネットワークの向こうには常に「人」がいることを考えて、その人を思いやるという気持ちが大切なのです。

(日光)